



BRAILLE PARROTER

ブライユ・パロッター



点字を利用した新しい楽器のデザイン

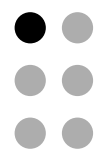
この笛は、指を点字のルールに従って動かすことで、日常会話を音楽にする。誰もが作曲家になり、それぞれの言葉で音楽をつくる。音によるメッセージを、わたしたちは注意深く聴く。

視覚に障害のある人で、点字を読み書きできる人は約 10% と言われている。点字を必要としていても、覚えることの難しい人が多い。一方で、点字さえあれば問題ないという考えでデザインされているものは数知れない。指先で小さな凹凸を読み取ることや、何通りもある点の組み合わせを覚えることの難しさは、なかなか伝わりにくい。

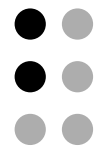
この笛はその難しさを、楽しみながら学ぶことができる。点字を使う人も使わない人も、ただ会話を楽しむことで、だんだんと点字を覚えていく。この笛は、両者の間にある溝を埋めることになるだろう。

音楽による会話は、意思の疎通が難しくなる。その難しさは、言葉による会話でも感じていたはずのものだ。便利になるとともにありふれたものになってしまった言葉の重みを、この笛は再確認させる。そしてわたしたちは、意思疎通ができた時の純粋な喜びを体験するのだ。

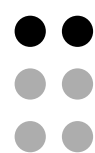
あ



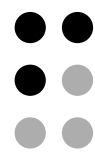
い



う



え



お

